

## 練馬区環境基本計画 2023（素案）に対する意見

2023 年 7 月 24 日

練馬・生活者ネットワーク 環境部会

### <全体>

・「年号の表記は和暦を原則とします。ただし、パリ協定に基づく温室効果ガス削減に関する年号には西暦を用います」とあるが、和暦は経過期間を知るためには非常に不便。西暦に統一すべき。

・計画素案に対する意見募集に際し、区主催で小学生など誰にとってもわかりやすい説明会を開くべきだった。

### <エネルギー>

・区立施設等の省エネ・再エネ導入について、断熱対策や太陽光パネル設置など改築のタイミングを待たずに進めるよう検討すること。

・公共施設の電力調達には、再生可能エネルギーの比率が高い電力会社を積極的に選定すること。

・蓄電池の補助金について

太陽光パネルの普及と共に蓄電池の設置も重要。特に災害時の電力供給にも必要であり、区民が利用しやすい蓄電池のみの補助制度を拡充する。

・「国は第6次エネルギー基本計画を策定し、安全性の確保を大前提として、安定供給やコスト低減に向けた取組を示し、2030年度の電源構成について再生可能エネルギーの割合を36～38%に引き上げる方針を示しました」とあるが、電源構成に原子力発電を20～22%掲げている。しかし原子力発電の安全性の確保はあり得ない。汚染水の問題も解決していない。また安定供給にもならない。

特に地震が頻発している昨今の日本において原発ありきの政策は認めず、区として原発ゼロの姿勢を明確に示すべき。

### <教育>

・小・中学生へ総合的な環境学習の時間を継続的に設けること。その事業を請け負う環境学習チームを作り、実施機材等必要経費の予算化をすること。

・今までの広報レベルでは「2030年までにCO2排出量を（2013年比の）46%減」の実現の鍵となる、これまで関心のなかった区民が行動変容するまでのアプローチが全く足りていない。計画実現の広報チームを作り、特設サイト作成や、動画作成・配信など啓発のために相当な予算をつけること。

### <仕組みづくり>

・区民の環境意識を高めるために、環境に配慮している飲食店などの店舗での買い物にエコポイントをつけるなど、地域の商店街と連携して環境施策と商店街振興の連携を検討すること。

#### <みどり>

- ・森林譲与税は、区外の例えば友好都市長野県上田市などの森林を買取り、管理する、などで CO2 の吸収に役立てること。
- ・ねりまのみどりの満足度 80%ではなく、緑比率 30%など具体的な目標数値を立てること。
- ・「豊かなみどりを楽しめる歩道、快適な自転車の走行空間、電柱のない街並みなど、豊かで美しい都市空間をつくる道路整備に積極的に取り組みます」とあるが、「豊かで美しい都市空間」は区が決めるものではない。地域住民の声が反映されず道路ありきですすめられることが殆どである。道路計画や整備計画のために貴重な憩いの森や湧水を失うような計画はやめるべき。

#### <清掃・リサイクル>

- ・家庭から出る生ごみのコンポスト化に取り組むこと。予算化し、コンポスト化したものを、広く活用できるしくみをつくること。
  - ・練馬区役所プラスチック削減指針に基づき、ペットボトル飲料やクリアファイルなどのプラスチック製品を使用しないよう、区や関連団体、学校に呼びかけること。
  - ・区報にも、区役所プラスチック削減指針を掲載し、広く区民に周知すること。
  - ・プラスチックの一括回収に向け、回収場所の確保や、仕組みづくりなど、23区で連携して進めること。
  - ・埼玉県や神奈川県等の 23 区外にできたソーティングセンターまで運ぶための、大型車に積み替える場所を、清掃工場や資源循環センター内に確保すること。
- ・ごみ削減と節電のため、公共施設の飲料自動販売機を減らすこと。また、ペットボトル以外のびん・缶・紙パックのみにすること。削減するごみやエネルギーの具体的な目標数値を示すこと。

#### <その他>

- ・計画の改定・見直しにおいて「本計画は、環境審議会や区民意見反映制度（パブリックコメント）により、広く区民から意見を伺い、改定・見直しを行います。」とあるが、区の計画に反対するパブコメはほとんど反映されない。「広く区民から意見を伺う」のであれば制度のあり方から区民とともに見直すべき。

以上